別紙様式１

令和５年度音戸中学校区研究推進計画

校番　２８　　呉市立波多見小学校
校長名　　蒲原　尚博

１　学校教育目標

志をもち，自ら動き，たくましく生活する児童の育成

２　目指す児童生徒像

ふるさとを愛し，自律できる児童生徒の育成

３　育成を目指す資質・能力（具体の姿）

<table>
<tr><td rowspan="2">設定した資質・能力</td><td>知識及び技能</td><td>思考力，判断力，表現力等</td><td colspan="2">学びに向かう力，人間性等</td></tr>
<tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>協働的に関わる力</td><td>地域の一員として関わる力</td></tr>
<tr><td>後期</td><td rowspan="3">各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。</td><td>目的に応じて適切な調べ方を選択して集めた情報を批判的に分析・整理して，効果的に表現することができる。</td><td>様々なコミュニケーションを通して，思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。</td><td>呉・音戸の一員として課題の解決に向けて，地域社会に参画しようとする。</td></tr>
<tr><td>中期</td><td>目的に応じて調べ方を工夫し，収集した情報を目的意識や相手意識を持ちながら分析，整理して，表現することができる。</td><td>コミュニケーションを通して，互いの良さを生かし，協働して解決することができる。</td><td>呉・音戸の一員として課題の解決に向けて，自分ができることを考え，実践しようとする。</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>多様な調べ方を知り，収集した情報を比較したり，関係付けたりしながら分析して，整理することができる。</td><td>他者とコミュニケーションをとりながら，協働して，課題を解決することができる。</td><td>学んだことを自分の生活や地域（音戸）のために生かそうとする。</td></tr>
</table>

4　研究主題等

（1）研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

（2）設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和4年度は，主体的に学び合う児童生徒の育成に向けて，小学校ではドリルタイムの設定，振り返りの時間に重点を置いた授業づくり，ICT の効果的活用の授業提案などに取り組んだ。中学校では思考の「場面」「過程」「手立て（比較／関係づけ）」に着目した授業改善および授業実践を行った。

また，全国学力・学習定着状況調査の結果を分析したところ，本中学校区では「根拠を示しながら説明する力」に課題があることがわかり，中学校で取り組んでいた1分間スピーチを小学校でも取り組むこととし，自己表現する力を高める取組を行った。

さらに令和4年度は，新型コロナウイルス感染症の拡大をうけて中止していた小中交流授業を再開させたり，新しく小小連携を行ったりするなど児童生徒・教職員が関わりあう活動を復活させることができた。

令和5年度は「根拠をもとに思考・判断・表現する力」を鍛える視点をもちながら授業実践に取り組むとともに，音戸中学校区授業モデルをもとに児童生徒が主体的に考える授業づくりを行う。また，児童生徒の自己肯定感や協動性を高める小小・小中連携を計画的に行い，総合的な学習の時間や委員会活動などを充実させていく。これらの取組を通して小中全ての教職員が連携して音戸中学校区9年間の学びを作っている意識を共有できるようにしていきたい。

（3）令和5年度研究仮説

生活指導部会及び生活向上部会の取組を基盤とし，小中教職員の合同研修を計画的に設定し（中学校区の課題の共有／めざすゴールの共有／授業モデルの共有／授業改善の視点の共有／各部会での分析／単元開発および提案授業），組織的に授業改善の取組を進めていくことにより主体的に学び合う児童生徒が育成されるだろう。

5　研究内容

＜学力向上部会＞

①　児童生徒が主体的に学習に参加できる授業づくり

音戸中学校区授業モデル（別途添付）をもとに，自己決定の場を設定する授業構成を小中それぞれ実践する。また研究授業では，学びの変革授業参観シートを活用し，思考場面について協議できるようにする。

さらに，ICT を効果的に活用した授業づくりについても引き続き取り組む。

②　思考力の基盤となる語彙力を育成する取組

小中ともに児童生徒の言語環境にかなり個人差があり，思考や学習の基盤とな

る語彙力が少ないことに課題があることがわかった。これを解決するために，各校でことばに触れる機会や場面を意図的に増やす取組を工夫する。

また，令和４年度に小中で取り組んだスピーチや朝読書の取組を継続し，図書の活動も充実させていく。

③ 総合的な学習の時間の充実

地域を学習材とした単元を開発するとともに，小小・小中の交流学習を充実させる。地域の環境や人材を積極的に活用し，児童生徒が地域に出て行く単元を増やす。また，カリキュラムマップを見直し，小中９年間でめざす学びの姿を児童生徒と共有できるようにする。

＜生活指導部会＞

④ 児童生徒の自己肯定感を高める活動の充実

昨年度に引き続き，生徒指導の視点をそろえて小中が同じ目線で児童生徒を指導していく。子ども達との信頼関係を築き，分かる授業づくりをするなど，日々の教育活動を大切にしていく。

児童会･生徒会のオンラインによる交流やクリーン活動などを計画･実践する。

＜生活向上部会＞

⑤ 基本的な生活習慣の定着とメディアコントロール。

早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロールの４項目の取組を定期的に実施し，基本的な生活習慣の定着をめざして家庭にも積極的に情報発信する。小中９年間の発達段階に応じたメディア機器の使用に関わる指導を行い，児童生徒のメディアリテラシーの向上を図る。

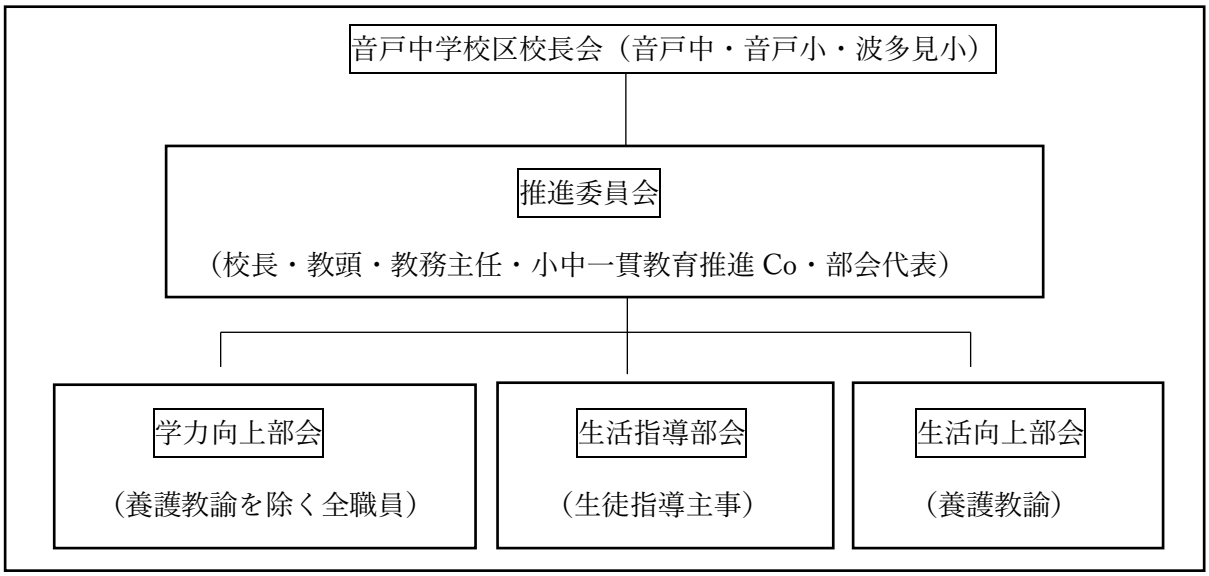
6　検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 思考力・判断力・表現力は育ったか。	小：学期末テスト（国・算）	平均点	―	1～6年80%
	中：学年評定	思考・判断・表現の観点がB以上の生徒の割合（国・数）	中１　－ 中２　61% 中３　52%	昨年度 ＋10%
	１分間スピーチアンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	―	80%
① 自己肯定感は高まったか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	1～6年84% 7～9年65%	1～6年85% 7～9年70%
② 生活リズムの確立はなされたか。	生活リズムカード	各学年の目標を達成している児童生徒の割合	―	80%

7　推進体制

（１）研究構想図　（別途作成）

（２）推進組織



（３）一部担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（小→小，中→小）

・音戸小と波多見小の同学年交流（随時）（小→小）

・小学校第６学年　総合的な学習の時間（３学期実施）（中→小）

イ 小学校教科担任制等

・波多見小　第３学年，第４学年，第５学年，第６学年（理科）
　　第４学年，第５学年，第６学年（図工）

・音戸小　　第３学年，第４学年，第５学年，第６学年（理科）
　　第５学年，第６学年（体育）

8　推進計画

小中合同研修会の計画

５月　総会（中学校区の課題及び／めざすゴールの共有）

※中学校の授業を１時間参観してから総会・各部会を行う。

５月　授業モデルの共有

７月　波多見小学校授業研

８月　全国学力・学習状況調査の分析

９月　音戸中学校授業研

音戸小学校授業研（２学期後半に実施）

１月　各部会で成果と課題を分析

２月　総会